

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	せんだいメディアテーク
2 指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
4 施設の利用状況	<p>《利用者数》 令和5年度 268,581人(前年度比 300.8%) 令和4年度 89,288人 令和3年度 117,281人</p> <p>《事業》 メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行う。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行う。</p>
5 収支の状況	<p>《費用》 ( )は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者に支払った費用 612,793千円 (582,250千円)</li> <li>その他市が負担した費用 3,972千円 (748,479千円)</li> </ul> <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用料収入 62,720千円 (32,777千円)</li> <li>その他収入 2,735千円 (1,876千円)</li> </ul>
6 利用者の声	<p>《実施状況》 令和5年12月、施設利用者アンケートを実施した。</p>

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	職員が施設の設置目的を理解していることで、施設運営や事業実施に活かされており、市民活動や外部機関と積極的に連携した事業を実施している。定禅寺通に面した立地条件を生かし、定禅寺通エリア活性化を目的とした各種取り組みに積極的に参加協力するとともに、市の事業をはじめ施設周辺で実施される文化活動へ協力している点を高く評価する。	30/27
II 施設の運営管理体制	災害発生時の誘導體制や、施設内で事故が発生した場合の連絡体制が明確になっており職員間での共有が徹底されている。個人情報保護・情報セキュリティ研修など、年間を通じ各種研修の実施や、随時情報共有を行う体制を構築している。令和5年度は、避難訓練にて消火栓の使用方法について全館職員で実践のうえ確認し、施設内の安全管理への意識を高めている。	30/30
III 施設・設備の維持管理	施設の保守点検や清掃などが適切に行われており、利用者が常に安全に利用できる状態を保っている。警備員の巡回も適切に行われており、利用者へ安全で安心感のある環境を提供している。環境配慮のため、利用者用分別ゴミ箱の設置・呼びかけ、使用頻度の低い部屋での消灯等実行している。施設の周辺樹木から落葉があるが、職員によるこまめな確認・清掃により、点字ブロック使用者が落葉にて転倒する等の事故を未然に防ぐ努力を行っている。	24/24
IV サービスの質の向上	施設利用者が使いやすいように、窓口やHPでの情報提供方法に工夫をしている。利用者からの意見やアンケート結果は、職員が情報を共有し改善に努めている。施設特性上見学者の多い施設であるため、多言語に対応できるよう職員を配置するほか、幅広い層に向けたパンフレットを作成している。窓口対応等でお客様と接する職員全員がマニュアルを所有しており、内容を把握できている。また、適宜接遇に係る日常の事例集をまとめ、職員間で共有を図り、マニュアルの内容についても随時更新し、ブラッシュアップが図られている。	28/28
V 施設固有の基準	施設貸出や使用料徴収などの管理業務は適切に行われている。各種講座、市民等との協働事業を実施し、市民への生涯学習活動への支援が適切に行われている。事業実施にあたっては、市民が参加しやすい工夫がなされているほか、関係団体と良好な関係を築きながら行っている。令和5年度は自主事業において、仙台市が全国都市緑化フェアを開催するのに合わせ、会場の青葉山公園にあったまちのくらしや記憶を、アーティストの視点も得ながら伝える展覧会「自治とパケツと、さいかちの実エピソードでたぐる追廻住宅」を開催した。ユニークな表現方法による企画を展開するなど、東北圏における美術・映像・デザインの拠点としての、先進的な事業を行っている点について高く評価する。	27/26

### 三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》
<p>施設の管理業務にあたっては、施設の貸出し及び施設使用料徴収業務等を条例や協定書等に基づくとともに、インボイス制度への対応も含め適切に行った。契約における複数年契約や再リース等により費用の抑制にも務めた。また、個人情報保護及び情報セキュリティについて、専門的知識のある情報担当職員による全職員対象の研修等により対策を講じた。</p> <p>消防訓練では、市民図書館、カフェ、ショップ含めて、全館職員で年2回地震・火災を想定した避難訓練を行い非常時に備えた。訓練では実際に屋内消火栓からの放水訓練も実施した。</p> <p>施設・設備維持管理については、設備等の緊急性の高い修繕や延命に繋がる予防保全を実施した。また、警備・清掃・設備をはじめとする委託業者との連携を密に行い、安全かつ省エネルギーに寄与する維持管理に努めた。</p> <p>映像音響ライブラリーでは、実際に触れて体験できるバリアフリー機器の展示や、震災にまつわる展示「わすれん！資料室」を充実させ、資料貸出しサービスを分かりやすく伝える環境整備に努めた。</p> <p>自主事業においては、仙台市が全国都市緑化フェアを開催するのに合わせ、会場の青葉山公園にあったまちのくらしや記憶を、アーティストの視点も得ながら伝える展覧会「自治とバケツと、さいかちの実エピソードでたぐる追廻住宅」を開催し、好評を得た。てつがくカフェをはじめ、展示にまつわるトークなど、新型コロナウイルス感染症の影響で少なくなっていた対話の場を、市民活動との協働によって、再開することができた。館長トークには、ウクライナから詩人を迎え、戦時下の人々の日常と言葉の変容、災厄の語り継ぎについて語り合う場ができた。その他、沿岸部の復興、ごみの減量、共生社会、市街地活性化など、社会課題にアートの視点を活かした様々な取り組みを行うなど、メディアテークの特性を活かした高い公共性を有す事業を展開することができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>せんだいメディアテークは、市民図書館との複合施設ということもあり、多くの方々に利用される施設である。</p> <p>令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したこともあり、令和4年度と比較して利用者が大幅に増加した。図書館の事業に加え、定禅寺通に関する各種事業等への連携についても、良好な協力体制が整えられている。</p> <p>貸出施設においては、公平な施設使用許可の取扱や利用者に対する適切な支援を行うほか、施設使用時のきめ細かいアドバイスを実施しており、当該施設が市民の生涯学習活動の場として支持されているものと考えられる。また、ギャラリーについては、多くの市民に利用いただけるよう、抽選後の調整を丁寧に行い、利用促進・利用率向上に努めており、円滑に施設運営を行ったことも評価すべき点である。</p> <p>施設管理については、施設の老朽化が進み、設備の故障等緊急に対応を要する場合も増えているが、予防保全として保守点検を計画的に実施するとともに、故障等の発生時には都度迅速に対応し、利用者への影響を最小限に抑えることができている。また、省エネルギーに関する取り組みや、施設周辺環境の整備等、施設管理面において細やかな対応を行っており、避難訓練においても消火栓の使用方法など職員間で共有し、安全面での対策を講じている点が評価できる。</p> <p>活動支援においては、他施設にはない専門性を活かして、本市他部局や大学、NPOなどの団体と連携・協力しており、本市における生涯学習・文化芸術支援の拠点として大きな役割を担っている。地域の課題やニーズを的確にとらえ、事業に反映させた各種企画を展開しており、東北圏における美術・映像・デザインの拠点としての、先進的な事業を行っている。震災関連の映像等を含む、様々な協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、公開・提供することで、市民や市民団体等への支援を行っている。また、定禅寺通の持続的なエリア活性化の取り組みの検討と試行に対し、積極的に協力している。メディアテークの特性を活かした高い公共性を有する事業を様々展開し、市民へ多様な学びの機会を提供できた点が評価できる。</p> <p>以上、せんだいメディアテークの管理運営を伴う当該財団による事業運営は、これまでの運営実績により蓄積された高度な専門性と、利用者や市民団体など様々な主体との良好な関係に基づき、多様な市民の生涯学習活動における要望に適切に対応し積極的にサービス向上に取り組むなど、施設設置目的に沿った管理運営を実施しているものと評価できる。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

© 評価担当課(施設所管課):教育局生涯学習部生涯学習課